

第 37 回 ISP の集い in 長崎開催報告書

日時：2013 年 2 月 21 日（木）～2 月 22 日（金）

場所：出島交流会館 〒850-0862 長崎市出島町 2-11

主催：社団法人日本インターネットプロバイダー協会 地域 ISP 部会

後援：長崎県

参加者：21 日（木）44 名、22 日（金）53 名

■2 月 21 日（木）

13:00～13:05 挨拶

13:05～14:30 「地域情報化と防災」

株式会社にんじんネット 会長 藤澤等氏

14:35～15:35 「総務省における ICT 利活用政策」

総務省 情報流通行政局 情報流通振興課 企画官 田邊光男氏

15:35～15:50 休憩

15:50～16:50 軍艦島を世界遺産に

NPO 法人軍艦島を世界遺産にする会

理事長 坂本 道德氏

16:55～18:00 WCIT の結果について

総務省 情報通信国際戦略局 国際政策課 国際広報官 出口岳人氏

18:30～ 懇親会&意見交換会

■2 月 22 日（金）

10:00～11:00 WCIT 関連の今後の動向

総務省 情報通信国際戦略局 国際政策課 国際広報官 出口岳人氏

IGF と IGF-Japan について

イー・アクセス株式会社 小畑至弘氏

11:05～12:00 児童ポルノサイトブロッキングの共同利用について

DNS ブロック及びハイブリッド・フィルタリングを共同利用する際に、
課題となる技術上の問題及び運用上の課題について

NTT コミュニケーションズ株式会社 北村和広氏

12:00～13:00 昼食

13:00～15:10 無線 LAN について

「無線 LAN における最近の動向」

総務省 総合通信基盤局

電気通信事業部 データ通信課 企画係長 中野誠氏

「無線 LAN 第三者利用のリスク」

サイバーエリアリサーチ株式会社 中西健氏

「パネルディスカッション」

モデレーター :

社団法人日本インターネットプロバイダー協会 副会長 立石聡明氏

パネラー :

総務省 総合通信基盤局 電気通信事業部 データ通信課 中野誠氏

株式会社になじんネット 会長 藤澤等氏

サイバーエリアリサーチ株式会社 中西健氏

15:10～15:25 休憩

15:25～18:15 IPv6 と NGN (途中休憩含む)

「IPv6 対応へ向けた総務省の取り組み」

総務省 総合通信基盤局 データ通信課 課長補佐 佐藤司氏

「IPv6 インターネット普及に向けたNTT西日本の取り組みについて」

西日本電信電話株式会社 相互接続推進部 中村敏彦氏

ビジネスデザイン部 宮崎純生氏

「PPPoE SWG の活動状況」

PPPoE SWG 副主査 菊池正郎氏

「ユニファイド・コミュニケーションの動向」

ネットワンシステムズ株式会社 川村聡宏氏

「NGN/IPv6 を活用したサービスの模索」

ソフトバンクモバイル株式会社 安力川幸司氏

「パネルディスカッション」

モデレーター :

ソフトバンクモバイル株式会社 安力川幸司氏

パネラー :

総務省 総合通信基盤局 データ通信課 課長補佐 佐藤司氏

ソネットエンタテインメント株式会社 菊池正郎氏

日本ネットワークイネイブラー株式会社 温井一博氏

イー・アクセス株式会社 小畑至弘氏

開催概要 :

今回で 37 回目を迎えました。スマホの普及もあり「無線 LAN」の利用状況や環境が問題視されているところ、長崎の「になじんネット」が公衆無線 LAN とスマートフォン向けコンテンツを提供、無線 LAN ソリューションとしてネットワークの構築を提供しているとのこと。ぜひ現地での取組をお伺いしたいとのことで、今回ホストをお願いしました。現地ご登壇者の手配、会場、懇親会の手配等にご尽力いただき、ありがとうございます。この場を借りましてお礼申し上げます。

2月21日(木)

1日目は、その株式会社になじんネット 会長 藤澤等様による、「地域情報化と防災」の話です。以前大学教授をされていて関西から長崎にいらしたそうです。「学者だったので、現実離れた話となりますが、ご容赦ください。」という言葉から始まりました。ただし現実離れただけで5年

後には必ず訪れるであろう、日常生活から企業活動に至るまでのヒントとしてお話しいただきました。

インターネットのアクセス数はサイト毎にプロットすると「図のようなベキ関数で表される。」このベキ関数はどこの地域（海外含め）でも該当する分布である。地域 ISP、地域でインターネット関連事業を行っている方々は長崎や自分の地元からグーグルを上回るようなアクセスサイトが出てくるのかという点と出てこないし、そういうのを望んでも無理である。「我が社もいつかはグーグルになる」という夢を抱いてはいけない。それはもはや、確定事項であるという、強いお言葉。そして 80 対 20 の法則があり、地域にとってはその 20% が大切。地域 ISP のすべき役割は何か、20% をいかに実り多いものにするかにつきます。80% については、地方、東京、ニューヨークにいても、どこでも情報は同じ。20% は地域の情報、自分に関わるような情報は 20% のさらに 20%、つまり 4% である。日本の特殊性なのかもしれないが、ミドルワールドが欠如しているのである。スモールワールド（個人・家族・友達）→ミドルワールド（コミュニティ・基礎自治体）→ラージワールドとなるが、日本ではスモールワールドの後、飛び越えて日本全国に目が行ってしまっている。それによって地域のコミュニティが成り立たない状況になっている。さらに、現在ミドルワールドを支えているのはどこかという点と基礎自治体であるが、藤沢さん曰く、「頼りにならない、住民のために何かを考えると気が無いと感じる」だそう。そこには藤澤さんが防災無線関係を含めた地域住民がいかに安全・安心に暮らせるように提案した時の案件と自治体とのやりとり、最後には「やってもしかたない」の結論で進まない状況が目に見えるような、思い浮かべられるくらい力強い話でした。防災無線デジタル化を平成 28 年までにしているが、全然デジタル化ではない、また水道メータ（検針）の具体的な問題点等々、いままでかなり動かれてきたのだなと感じました。そして地域 ISP が大事にしなければならない事。「物理的な世界」いかに物理的な世界を情報の世界に取り込んでいくのかを考える事である。とのこと。このまま放っておくと今以上に個人化が進んでいく。個人個人がいて、その後に自分たちの町や村がどうなるかと言うのを考える事が大事なのに、そのミドルワールドを飛び越して日本全国に目を向けてしまう。英語が少し出来る人はさらに飛び越して世界に目を向けてしまう。地域 ISP の果たすべき役割とは、基礎自治体との関係を築き活用する、日常生活との接合点「もの」を仲介した「ひと」の絆。近いところに目を向けてコミュニティを作ること、地域のための情報源になることが大切。今回の藤澤さんのお話しは耳の痛いものでもあり、久しぶりに「先生の講義」って感じでした。とても楽しかったです。

次は「総務省における ICT 利活用政策」として、総務省 情報流通行政局 情報流通振興課 企画官 田邊光男氏にご登壇いただきました。藤澤さんの刺激的なお話しの後、どうやって話をつなげていこうかと困惑しているようでした。今回は ICT 利活用についてですが、海外と比較して日本がどんな状態にあるのか、ICT の基本整備は最先端だが、利活用が遅れている現状。特に電子政府が遅れているとか。東日本大震災の際にスムーズにできなかった対応を検討し、情報流通連携として、横のつながり、オープンデータ戦略を作ったり、ICT 超高齢社会構想会議を設けて課題可決と経済成長を目指すよう検討しているそうです。医療分野、教育分野、防災分野、地域の情報化、環境分野、行政分野の 6 つを情報流通連携の促進を図り、整備して利活用促進を目指します。そしてそれぞれの具体的な取組をお話しいただきました。そしてセキュリティやプライバシー関係の問題点が必ず出てきますので、政府における情報セキュリティ政策の推進体制の充

実、パーソナルデータの利用・流通に関する研究会を別途立ち上げ、対応に乗り出しています。その他平成 25 年度総務省 ICT 関係重点政策もお話いただきました。

休憩を挟んで「軍艦島を世界遺産に」として NPO 法人軍艦島を世界遺産にする会 理事長 坂本道徳氏にご登壇いただきました。坂本さんは実際に軍艦島に住んでいらっしゃって、1974 年の閉山とともに軍艦島を後にしたそうです。軍艦島ツアーのガイドもされているそうで、年に 400 回以上のガイドをこなしたこともあったとか。現在、閉山から約 27 万 5000 人の方々が入陸し見学をしているそうです。そして、「軍艦島の住み方の記憶」として、当時の建物や内部の様子をスライドで見せて頂きながら、お話しをお聴きしました。機会があったらぜひ、軍艦島を見学に行かれたらいいかと思います。野ざらしになっているため、今の状態がどの程度続くかわかりません。台風や海からの波風が建物を老朽化させています。見学に行った「今」が最新の状況で次に来るときはないかもしれない。と言うような状況だそうです。軍艦島を世界遺産にする活動ですが、九州山口の近代化産業遺産として、中に入ることによって世界遺産を目指しているそうです。実際に住んでいる方のお話しはとても重いものでした。軍艦島は日本の未来図、今後の象徴だと締めくくられました。恐ろしいことです。

では、軍艦島の概要をご紹介します。「軍艦島」は正確には長崎県長崎市高島町端島の俗称です。戦艦「土佐」に島影が似ていることから名付けられたといえます。場所は、東経 129 度 45 分、北緯 32 度 39 分に位置し、野母半島の北西、長崎港から約 18 キロの海上にあります。大きさは、南北約 480m、東西約 160m、面積は約 6.3ha、周囲約 1.2km、海拔 47.7m という小さな島です。1810 年頃石炭が発見され、佐賀藩が小規模の採炭を行います。明治 23 年、三菱が島全体と鉾区の権利を買い取り本格的な海底炭坑として、操業が開始されます。島直下及び、周辺の海底から良質の強粘結炭を採掘し、主として八幡製鉄所に製鉄用原料炭を供給する島として、国家の手厚い保護を受けてきました。明治期には中央の岩盤上に 3~4 階建ての木造住宅が数棟あり、東部平坦地には作業場、西部平坦地には住宅及び公共施設、小中学校(7 階建)、共同販売所、映画館、料理屋、娯楽場、病院などがありました。それらが林立する姿を大正 12 年に当時の長崎日日新聞が初めて「軍艦島」という呼び名で世に紹介します。そして、日本初の鉄筋コンクリート造高層集合住宅である 30 号棟が大正 5 年に建築され、日本近代建築史上特筆に値する重要な文化的遺構であると言われていました。しかし、国のエネルギー転換政策の推進に伴い、結局 1970 年の端島沖開発中止により会社は鉾命終了期を発表し、1972 年に 12 月に採炭を終了、1974 年 1 月 15 日正式に閉山したのです。これを受け、同年 4 月 20 日をもって野母商船定期便が廃止、島民は皆島を去ったのです。操業当時は、長崎港から高島を経由して 1 時間 20 分の定期船が 2 隻運航していましたが、もちろん今では定期便はありません。最盛期には 5,200 人の人口で当時の東京人口密度の 9 倍とも言われましたが閉山時には人口は 2200 人でした。

1 日目最後は「WCIT の結果について」として総務省 情報通信国際戦略局 国際政策課 国際広報官 出口岳人氏にご登壇いただきました。何回か集いの場所で本件についての講演がありましたが、ITU の基本的な法体系から位置づけ、ITU 条約と基本的なことから、電気通信に関する定義をまずお話いただきました。そして 12 月 3 日~14 日に開かれた国際電気通信連合 (ITU) の会合で、ITU が定める国際電気通信規則を改正するかどうかということが話し合われた結果を説明いただきました。この規則は 1988 年に制定、対象としているのは国際的な電話サービスでその後、ネット技術を使った通信が急速に普及し、途上国からネットも対象に加えるべきだとい

う議論が起こってきた事が発端で、その後ネットの力が世界で強く認識され、同時にサイバー攻撃の問題も出てきたこともあり、規則を改正する会議を 2012 年に開くことが 2006 年に決まったそうです。主な争点はインターネット資源に関する国や ITU による管理、インターネットの表現の自由、セキュリティ対策。日本を含む米国、欧州諸国を中心とした 55 カ国が署名しなかった。署名しなかった理由として、インターネットに関する国による管理・規制やインターネットへの国連機関の関与について、米国、欧州等先進国とアラブ諸国、ロシア等の間に大きな考え方の相違があり、ITR のあるべき姿についての国際的な共通認識が未だ熟していないからだそうです。

1 日目は、この 4 つのセッションで終了です。この後懇親会を行いました。

2 月 22 日 (金)

昨日に引き続き、WCIT 関連の今後の動向として、出口さんにご登壇いただきました。WICT 後の動向は、よくわからない状況になっている。12 月のドバイでは改正文書自体は採択されたが署名 89 カ国、署名しなかったのが 55 カ国で先進国は揃って署名していないと言う結果になり、途上国と先進国ではまとまらなかった。WCIT 後、2 月に初めてジュネーブで ITU、国際会議があり、その場の状況も途上国、先進国の開きが大きく見えて来ているようです。その会議の時の様子をお話いただきました。

次に「児童ポルノサイトブロッキングの共同利用について」NTT コミュニケーションズ株式会社 北村和広氏にご登壇いただきました。児童ポルノサイトブロッキングについては、JAIPA も実証実験に加わり、今年は 1 月沖縄、2 月京都と有識者を集めたセミナーを行いました。その際にも北村さんにはご講演いただいたのですが、現状行っている DNS ブロックと今後の検討としてハイブリッド・フィルタリング、共同利用する際の課題と技術上の問題、運用上の課題についてお話いただきました。この課題については、2013 年度も引き続き検討して行かなくてはならないことです。

休憩を挟んで次は、「無線 LAN における最近の動向」として、総務省 総合通信基盤局 電気通信事業部 データ通信課 企画係長 中野誠氏にご登壇いただきました。総務省主催の無線 LAN ビジネス研究会のおさらいと、その研究会の報告書の提言を受けて「無線 LAN ビジネス連絡会」を設置したこと。一般利用者が安心して無線 LAN を利用するための方策や、無線 LAN の情報セキュリティ上の脅威についてとりまとめた手引書「一般利用者が安心して無線 LAN を利用するために」を、策定。さらに次世代高速無線 LAN について今後の用途についてお話いただきました。そのあと、「無線 LAN 第三者利用のリスク」としてサイバーエリアリサーチ株式会社 中西健氏の WiFi をつかうことによるリスク、IP で出来ること、出来ないことをお話いただきました。その後、1 日目にご登壇いただいた、にんじんネットの藤澤さんを加え、3 名がパネラー、JAIPA 立石副会長をモデレータで、パネルディスカッションを行いました。長与町で十数年前からセキュリティフリーで提供している、にんじんネットの無線 LAN、第三者利用が気になる FON の話、どんどん増える混信の問題、あるべきネットワークが使えなくなる心配、最低限のルール作りは必要なのではないか。使ってはダメというのは中立性に反する、しかし悪用された場合はどうするのか。さらに災害の話を含め、会場とも活発に意見交換が出来ました。このセッションと次のセッションは UST がされませんでした。残念ですが、ここだけの話。

休憩を挟んで、最後は IPv6 と NGN です。「IPv6 対応へ向けた総務省の取り組み」として、総務省

総合通信基盤局 データ通信課 課長補佐 佐藤司氏、「IPv6 インターネット普及に向けたNTT西日本の取り組みについて」西日本電信電話株式会社 相互接続推進部 中村敏彦氏、ビジネスデザイン部 宮崎純生氏、「PPPoE SWG の活動状況」として、PPPoE SWG 副主査 菊池正郎氏、「ユニファイド・コミュニケーションの動向」として、ネットワンシステムズ株式会社 川村聡宏氏の 4 件のプレゼンの後、ソフトバンクモバイル株式会社の安力川幸司氏をモデレータとしてパネルディスカッションを行いました。上記のご登壇者に加えて、日本ネットワークイネイブラー株式会社 温井一博氏、イー・アクセス株式会社 小畑至弘氏がパネルに加わりました。毎回、IPv6 の話はやっているのですが、なかなか決着がつかないのが現状。決着と言う表現が良いのか悪いのかもよくわかりませんが。今回は、「PPPoE SWG の活動状況」が JAIPA からの WG としてご報告できたのが良かったと思います。

さて、1 年に 3 回と言うことは、4 ヶ月に 1 回ペース。もっともっと新しく、これは聞きに行かなくちゃつと言うようなものを企画したいなと思います。あと、現地の方々との交流。出来れば、会員の皆様のご要望、企画を寄せていただきたいと思います。ぜひ、企画から参加してくださる方、お待ちしております。